

北山古墳（きたやまこふん）



おんせん ゆのいりちく とうもうせいしょうねんしぜん いえ たきのいりちく
温泉のある湯之入地区と東毛青少年自然の家のある滝之入地区
たに はさ はちおうじきゅうりょう なんせいほうこう の しきゅう ひょうこう
の谷に挟まれた、八王子丘陵から南西方向に伸びる支丘の標高13
りつち えんぷん
5mに立地する円墳です。

ふんきゅう ちよつけい たか はにわ ふきいし かくにん
墳丘の直径は2.2m、高さ4mで、埴輪・葺石は確認されていませ
せきしつ みなみ かいこう おくゆ まぐち たか
ん。石室は南に開口しており、奥行き3.7m、間口1.8m、高さ
ぎょうかいがん しょう りょうそでけい きりいしきくづ おくへき
2.1m、凝灰岩を使用した両袖形で、截石切り組み積み、奥壁には
しつくいぬ あと
漆喰を塗った跡があります。

きたやまこふん なんせい おねせんたんぷ にしやまこふん あいだ
北山古墳と、その南西650mの尾根先端部にある西山古墳との間
おお き ぐんしゅうふん そんざい こふん つく こふん
には多く（57基）の群集墳が存在します。古墳が造られたのは古墳
じだいこうき せいぎこうはん かんが
時代後期（7世紀後半）と考えられています。